

## 第 8 回 VTS 勉強会@東京 報告レポート

日時：2012 年 5 月 21 日(月) 19:00-21:00

会場：アーツ千代田 3331 会議室（東京都千代田区）

参加者：5 名（VTS セミナー受講者 4 名、京都造形芸術大学 ACC スタッフ 1 名）

### 勉強会について

東京勉強会のメンバーは学芸員、編集、企業、NPO、社会人学生など、異なった立場の人が集まっており、VTS を実践する環境もすべて異なる。そこで、勉強会をより有意義にしていくために、各回担当制にして、その担当者が現場で抱えている問題を勉強会のテーマとして決め進めていくことになった。また、受講生以外の参加者を募るか募らないかも、その担当者が決定することとした。

今回は、市民ボランティアを鑑賞ファシリテーターおよびコーディネーターとして育成している NPO の担当者が、「作品選び」をテーマにして実施した。

写真は、議論のたたき台となったシークエンス。



対象は Stage1,2 を中心とした一般的な大人で、すでに 2 回の VTS を実施済み。最初の 4 回まではストーリーを紡ぐためのエクササイズとして「働くことと生きること」、「家族」などをテーマにし、5 回目からは「アーティストの自画像」を用いることで作家を意識させ、その後「見る見られる / 交錯する視線」「視点と構図」「装飾性 / 地と図」と、難易度を増すというシークエンス構成であった。この他に子ども用のシークエンスも準備してきたが、議論が白熱し、この大人用のシークエンスについての議論で 2 時間が終了した。以下に、議論の内容を抜粋する。

< テーマの設定について >

\* 「自画像」というテーマは幅が広すぎるので、「女性の自画像」「描かれる女性」など、より絞ったテーマがふさわしいのではないか。

\* 「描かれる女性」というテーマがあるのなら、「描く男性作家」というテーマのシークエンスを次の回にもってきてはどうか。

\* 「家族」というテーマであれば、VTS セミナー Step3 でも使われた「meeting in law」を最後にもって来ると、大人にとって深みがあるのではないか。

< 難易度の移行 >

\* 最後の2シークエンスにたどり着く前に、もっと物語を語らせるシークエンスを重ね、これらのテーマは1年の最後でもいいのではないか。

など、ここでは書ききれないほどのアイデアが出された。

< 「作品選び」の難しさ >

今回、勉強会前の準備として、アメリカにおける教員向けセミナーの内容について、VTS ジャパン実行委員会事務局に問い合わせたところ、3年間におよぶプログラムは、受講者がVTSのストラテジーに則って、自信をもって実践におよべること（受講者のエンパワメント）を主眼としているため、難易度の高い「作品選び」は含まれていないということが判った（アメリカの実践授業は Visual Understanding in Education のシークエンスセットで実施している）。日本における「連続セミナー VTS」では、VTS のメカニズムをより本質的に、そして分析的に理解すること目的として「作品選び」を紹介したようだ。同セミナーの Step3 まで終了した受講者の中でも、「作品選び」がもっとも難しく、今後の課題と捉えている受講者が少なくないのも、理解できる。勉強会を終え、担当者は「作品選び」のポイントは大きく2つあるのではないかと考えた。1つは対象となる鑑賞者のこと（興味、経験、美的発達段階など）を知ること、もう1つは作品自体のことをよく知ること（情報ではなく、ビジュアルから何を読み取れるか）。VTS セミナーの中でも再三、作品と時間を過ごすことの重要性は言われていた。東京の勉強会でも引き続きテーマとして取り上げていきたい課題である。

#### おわりに

「作品選び」は一人で考えると偏りがちであるが、勉強会の場でたくさんの意見が交わされたことで、「作品選び」の視点も広がったようだ。しかしながら、最終的には実施するファシリテーターが、一番鑑賞者に近く、「作品選び」の責任を負う。議論のなかで広げたり深めたりした可能性を、取りまとめていく決断は本人がしていく。一人一人が自信をもって決断できるよう、今後の勉強会でも「作品選び」について深めていければと思う。